



図11 急斜面の中盤



図12 急斜面の後半

たいらスキー場のコースはスタート後に約250m程度の急斜面があり、その後200m程の緩斜面が続き最後のゴール前は300mほどの中斜面となっている。したがって急斜面でどれだけ速度をつけて緩斜面につなげるかがコース戦略のポイントと思われる。図10～12は二人の選手の滑りを重ねて比較したものである。優勝したM選手（国体、インターハイ優勝）は急斜面の入り口では2位のH選手より遅れているのがわかる（図10）。しかしながら急斜面の中盤では両者の差はなくなる（図11）。図では一人だけに見えるが、二人が同じ位置にいるので重ねると一人になって見えるのである。そして後半ではM選手が逆転し先に緩斜面に入っている（図12）。それゆえM選手は急斜面の入り口付近ではミスしていたものの、中盤からはリカバリーして後半ではより高いスピードで緩斜面に入って行ったことになる。先の図9も同じ斜面での比較であるのでこれらの分析から、急斜面の短いたいらスキー場においては入り口付近でのライン取り